

小中高大連携による持続可能なインパクトシティのいち創生事業

石川県野々市市（2023年度認定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

野々市市は、石川県のほぼ中央に位置し、山や海、大きな河川のない平坦地である。人口は増加傾向で、2つの4年制大学を有する学園都市・文教都市であり、多くの学生が暮らす全国屈指の若者の街である。面積は県内で最も小さいが、地域内交通や施設の密集度が高く、自然資源や文化資源を有する近隣地域へのアクセスが良い、コンパクトシティ。新たな産業の創造や、若年層の定住、市民の環境意識の向上等が課題となっているため、様々な主体の連携による分野を横断した取り組みを促進すること等により課題の解決を図り、持続可能な地域の構築に向けて取り組んでいく。

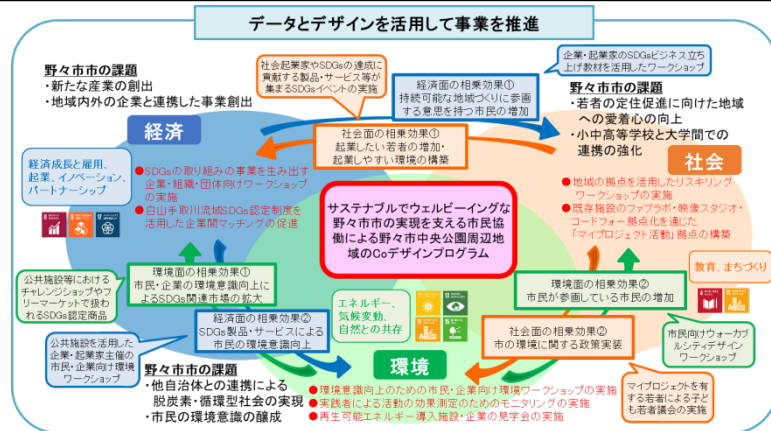
2. 関連するゴール



3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

19年に渡って本市と市内大学との連携によって進めてきたプロジェクトデザイン教育を小中高に展開し、子ども・若者が大人を巻き込みながら、持続可能なまちづくりに向けて地域変革を推進していく。その基盤として、ゲーミフィケーション教材を用いて市民等に意識変容・行動変容を促していく。また、本市最大の公園である野々市中央公園の拡張整備に取り組むことに併せて、公園周辺のまちづくりに市民が主体的に参加できる環境を整えるため、オープンバッジ制度や市民が行政に気軽に意見やアイデアを伝えることができるデジタルツールを活用するとともに、LWC指標を用いて活動量を見える化することで、サステナブルでウェルビーイングなまちの実現を目指す。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組



5. 取組推進の工夫

内部組織として「SDGs推進本部」を庁内に設置し、全庁をあげての推進体制を整えるとともに、外部有識者による「アドバイザーボード会議」を開催し、事業の推進体制について意見をアドバイスをいただいた。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

市HP及びSDGs推進協議会HPにて広く取組状況の発信をした。

6. 取組成果

○指標「市民・企業向け環境ワークショップ：119名（2025年 目標900名）」：木工ワークショップ19名、コンポストワークショップ44名、ウォークアブルワークショップ26人、太陽光関連ワークショップ30名等、環境意識向上に関するワークショップに加え、ノーコードや防災・減災に関するワークショップなど広く知識やスキルを習得することができるワークショップを展開することで、市民のSDGsへの関心を高めた。

○ワークショップの参加者に対して、知識やスキルのデジタル証明である「オープンバッジ」を発行することにより、モチベーションの向上やチャレンジしたくなる環境の整備につながった。「オープンバッジ」の発行が先進的な取組であることから市民の興味を引くことができ、ワークショップの参加者増加にもつながった。（2023年度発行21件）

○市立小学校でゲーミフィケーション教材を活用したPBL教育の導入・定型化に向けた学習指導案の作成に取り組み、翌年度以降の教員の負担軽減につなげることができた。

7. 今後の展開策

各種ワークショップの開催に加え、「野々市市SDGs未来都市計画」に掲げる課題の解決に向けて、令和6年度には市民団体等と市が協働で実施する「SDGs未来都市協働事業」に着手し、課題解決の取り組みを実践する機会を創出するほか、「子ども若者議会」を開催し、若者のSDGs推進に向けた機運をさらに高める取り組みを推進する。

SDGs未来都市等進捗評価シート

2023年度選定

石川県野々市市

2024年9月

SDGs未来都市計画名

野々市市SDGs未来都市計画

自治体SDGsモデル事業

市民のリスキングによるサステナブルスキル育成を促すオープンバッジ制度

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2023年度

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（1）計画タイトル

野々市市SDGs未来都市計画

（2）2030年のあるべき姿

「かがやき無限大 みんなでつくる インパクトシティのいち」

「インパクトシティ」には、様々な魅力が市の中に入ってくるという「in（イン）」と、インパクトを多くの人と与える可能性を持っているという「インパクト」、さらに県内一面積が小さいという「コンパクトなまち」という意味が込められている。コンパクトな都市であることを生かし、2050年までに脱炭素社会、循環型社会、ウェルビーイング社会、自然との共存共創社会という持続可能な都市に必要な4つの社会の形成の実現を目指すとともに、本市の様々な魅力を市民一人ひとりの力を合わせて磨いていくことで、市内外の人と大きなインパクトを与えるまちを実現し、自分が野々市市民、野々市ファンであることに対するシビックプライドを持てる地域を目指していく。

（3）2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
	  	

（4）2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	市の創業者支援に基づく起業家数【8.2,8.3】	2022年 3月 21 人	2023年 57 人	2030年 200 人	20%
2	市内従業者数【8.2,8.3】	2016年 24,167 人	2023年 26,900 人	2030年 25,500 人	205%
3	授業にPBL 教育を導入した学校数【4.7】	2022年 3月 1 校	2023年 1 校	2030年 8 校	0%
4	誇りと愛着を持つ若者の割合【11.3】	2022年 71.7 %	2023年 データなし	2030年 80 %	—
5	自治体DX の指数【9.5】	2022年 26.6 %	2023年 29.6 %	2030年 50 %	13%
6	デジタル生活指数【9.5】	2022年 39.9 %	2023年 42.0 %	2030年 55 %	14%
7	まちの緑化活動に取り組む町内会数【13.2、13.3】	2022年 3月 1 町内会	2023年 10 町内会	2030年 54 町内会	17%
8	緑道整備に関わる市のアダプトプログラムのボランティア活動に参加した若者の数【13.2,13.3】	2022年 3月 データなし	2023年 54 人	2030年 200 人	27%
9	市の事務事業における二酸化炭素排出量【13.2,13.3】	2020年 3月 5,472,129 kg-CO2	2023年 データなし	2030年 3,178,000 kg-CO2	—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（5）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標1「市の創業者支援に基づく起業者数」・指標2「市内従業者数」：当市は全国的にも珍しく人口が継続して増加傾向にあることもあり、起業者数や市内従業者数が増加している。公共施設内にシェアオフィスや日替わりでの出店が可能なシェアキッチンを設けることで、気軽にチャレンジできる場を提供するとともに、創業に関心のある方・創業予定の方・創業間もない方を対象とした創業セミナー、創業マルシェ、創業塾を開催し、事業者同市での交流や学びの場を提供することができた。若者が住み続けられるまちの実現に向けて、新たな産業の創造や、起業・創業の機運を高める取組のさらなる推進が必要である。
- 指標3「授業にPBL教育を導入した学校数」：学校数としての増加はなかったが、該当の1校について、小学5年生を対象として、総合的な学習の時間において、これからの野々市市の明るい未来をつくることをテーマとして、SDGsゲームなどを活用した児童の意欲や感心を高めるSDGs授業を実施した。併せて、市立小学校におけるSDGs理解のための授業に向けた学習指導案の作成に取り組み、今後の市内学校に取組を広げるための基礎を作ることができた。
- 指標7「まちの緑化活動に取り組む町内会数」・指標8「緑道整備に関わる市のアダプトプログラムのボランティア活動に参加した若者の数」：市内の保育園児、小学生等を対象とする環境教育事業を実施し、504名の参加があったとともに、各種環境意識向上ワークショップを実施し、119名の参加があり、次代を担う子どもたちを中心に、地域に対する愛着や環境保全意識を高める取組を進めることができた。
- 行政内部の推進体制：若手職員によるSDGsワーキングチームを設立し、市内大学生、市内の若手ベンチャーとの産学官連携により、地域の課題や魅力を整理の上、SDGsの理解やイノベーション創出を促すゲーミフィケーション教材「THE SDGs アクションカードゲーム X」の野々市市オリジナル版を開発した。さらにはSDGs推進本部会議を開催し、庁内での足並みを揃えとともに、国内外で活躍する外部有識者によるアドバイザリーボードを設置し（委員8名、なお男女ともに4名ずつで構成し多様性にも配慮）、SDGs未来都市の取り組みについて意見をいただいた。
- また、SDGsに関する事業の推進に取り組む外部組織として、メンバーを若者（中学生から大学院生）により組織した「野々市市SDGs推進協議会」を設置し、第1回の会議ではアドバイザーとして地域の民間企業の代表者等を招き、ご意見、アドバイスをいただいた。
- 情報発信・普及啓発：SDGsの取り組みやオープンバッジの普及に向け、市HPで情報発信をするだけでなく、「野々市市SDGs推進協議会」としてもHPを立ち上げ、協議会の立上げやオープンバッジ制度について広く情報発信に取り組んだ。（<https://nonoichi-sdgs.com/>）

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2023年度

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2023年～2025年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年 実績	2024年 実績	2025年 実績	2025年 目標値	達成度 (%)
1	企業版ふるさと納税等を活用した提案型協働事業のSDGs化と拡充	提案型SDGs協働事業の実施数	2023年3月 0 事業	2023年 0 事業			2025年 10 事業	0%
2	社会課題解決型ビジネスの立案に関するプログラムの実施	社会課題解決型ビジネスの立案に関するプログラムの参加者数	2023年3月 0 人	2023年 0 人			2025年 50 人	0%
3	教育機関へのSDGsゲーミフィケーション教材の導入	SDGs版人生ゲーム等のSDGsゲーミフィケーション教材を授業で導入した学校数	2023年3月 1 校	2023年 1 校			2025年 5 校	0%
4	Beyond SDGs 人生ゲームを活用したPBL教育の推進	PBL教育を受けた学校数（自治体に学校の授業で考えた内容を提案した学校数）	2023年3月 1 校	2023年 1 校			2025年 5 校	0%
5	まちづくりの意思決定プロセスへの主体的な参加の推進	若者が協力して意思決定をするためのデジタルツールの使い方を学ぶためのワークショップの参加者数	2023年3月 0 人	2023年 26 人			2025年 150 人	17%
6	環境意識向上のためのワークショップ	太陽光発電システムワークショップに参加した人数	2023年3月 3 人	2023年度 30 人			2025年 60 人	47%
7	環境意識向上のためのワークショップ	循環型社会を目指したコンポストワークショップ	2022年3月 14 人	2023年 44 人			2025年 60 人	65%
8	環境意識向上のためのワークショップ	自然との共存共創を目指した木工体験ワークショップに参加した人数	2022年3月 10 人	2023年 19 人			2025年 60 人	18%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2023年～2025年

（2）自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

- ・将来的にSDGsに関する事業の推進に取り組む外部組織として、事務局と事業へのアドバイザーを地域企業が、メンバーを若者（中学生から大学院生）が担う「野々市市SDGs推進協議会」を設置し、第1回の会議ではアドバイザーとして地域の民間企業の代表者等を招き、ご意見、アドバイスをいただいた。
- ・SDGs未来都市全般的な取り組み、野々市市SDGs推進協議会の運営等について、意見等を受けるため、国内外で活躍されている外部有識者により組織する「アドバイザーボード」を設置し、会議を開催した。

（3）「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標1・2「企業版ふるさと納税等を活用した提案型協働事業のSDGs化と拡充」「社会課題解決型ビジネスの立案に関するプログラムの実施」：それぞれ2024年度に実施予定としており、提案型SDGs協働事業及び社会課題解決型ビジネスの立案に関するプログラムへの参加促進に向けた周知に取り組む必要がある。
- 指標3・4「SDGs版人生ゲーム等のSDGsゲーミフィケーション教材を授業で導入した学校数」「PBL教育を受けた学校数」：市立菅原小学校5年生の総合的な学習の授業において、市内の大学と連携して、SDGsゲーミフィケーション教材を活用してPBL教育を取り入れた授業を実施するとともに、SDGs理解のための授業の定型化及びPBL教育の推進と併せて、教員の負担軽減を図ることを目的として、SDGs授業に係る学習指導案の作成に取り組み、令和6年度以降に順次、市内小学校で取り入れていくための基礎を築いた。
- 指標6～8「環境意識向上のためのワークショップ」：主に公共施設を活用した、若者向けの環境意識向上ワークショップを開催し、SDGsについて市内に浸透させることができた。一方で、参加者の多くが小学生やその保護者であったことから、高校生・大学生以上が興味関心を持ちやすいワークショップの開催や、周知方法について検討する必要がある。

（4）有識者からの取組に対する評価

- ・人口増加を背景に、起業家数、従業員数等は着実に伸びていると思われる。
- ・緑化活動の市民の増加など着実な増加が達成できている。シェアキッチンをはじめとする地域連携施設の相互連携活動、賑わいの創出ができている。
- ・シェアキッチンの取組は、勉強のためのワークショップ（リスキリング）からビジネス化まで、社会実装に向けた様々なフェーズに対応できる仕組みができているため、今後もうまく取り組むと良いと考える。
- ・起業家や市内従業員数が大きく増えていることは評価されるところであるが、「小中高大連携による」SDGs推進の事業内容の進捗が評価できるようになっていない。ゲーミフィケーション教材を作成できたものの、普及や活用の道筋が見えていないのは残念であるため、ぜひ、集中して取り組んでいただきたい。
- ・ワークショップ開催や施設の見学会開催など、市民の参加、意識向上に努めているところについては評価するが、その結果、実際に再エネ導入や資源循環などの市民の行動変容が実現されたのかについて考慮し、更なる計画の遂行に資す様期待する。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業又は取組名

市民のリスキリングによるサステナブルスキル育成を促すオープンバッジ制度

(2) モデル事業又は取組の概要

市民一人ひとりのサステナブルスキルや経験を見える化する「オープンバッジ制度」を導入することで、市内での取り組みを推進しながら市民一人ひとりの持続可能な社会に対する意識を向上させ、若者を中心とした市民が一体となってまちづくりを行う社会の実現を目指す。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2023年実績	2024年実績	2025年実績	2025年目標値	達成度(%)
【経済】 ①ー1 SDGsの取り組み・事業を生み出す企業・組織・団体向けのワークショップの実施	①ー1 ゲーミフィケーション教材を活用したSDGsの取り組み・事業を生み出す企業向けのワークショップを1回開催した。 ①ー1 ・ステークホルダーとの連携による「創業塾」、「創業セミナー」を各1回した。	市内起業家数	2023年 3月 21人	2023年 57人			2025年 50人	124%
【経済】 ①ー2 白山手取川流域SDGs認定制度を活用した企業間マッチングの促進	(令和6年度実施予定)	SDGs製品・サービス数	2023年 3月 製品/ 0 サービス	2023年 製品/ 0 サービス			2025年 製品/ 30 サービス	0%
【社会】 ②ー1 地域の拠点を活用したリスキリングワークショップの実施	②ー1 サステナブルスキル向上に向けた環境ワークショップを計5回開催した。 ②ー1 デジタルスキル向上に向けた各種ワークショップを計3回開催した。	地域の拠点を活用したリスキリングワークショップの参加者数	2023年 3月 0人	2023年 154人			2025年 160人	96%
【社会】 ②ー2 既存施設のファブラボ・映像スタジオ・コードフォー拠点化を通じた「マイプロジェクト活動」拠点の構築	②ー2 ファブラボ等の拠点化に向けて木工用切削機器1台、3Dプリンター1台、映像配信機器一式を市公共施設に配備した。	コードフォー拠点化した既存施設数	2023年 3月 0施設	2023年 0施設			2025年 1施設	0%

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2023年度

2. 自治体SDGsモデル事業

取組名	取組内容	指標名	当初値	2023年実績	2024年実績	2025年実績	2025年目標値	達成度(%)
【環境】 ③-1 市民・企業向け環境ワークショップの実施	③-1 自然との共存共創を目指した木工体験ワークショップほか、各種ワークショップを計5回開催した。	市民・企業向け環境ワークショップの参加者数	2022年 3月 0人	2023年 119人			2025年 300人	40%
【環境】 ③-3 再生可能エネルギー導入施設・企業の見学会の実施	③-3 再生可能エネルギー導入施設（金沢工業大学）の見学会を1回開催した。	太陽光発電システム等の再生可能エネルギー技術の導入施設数	2022年 3月 5施設	2023年 5施設			2025年 15施設	0%

（4）「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【経済】
・指標「SDGs製品・サービス数：0製品/サービス」：2024年度から市内大学や白山市、企業・団体等、近隣市町の様々なステークホルダーとの連携に向けて取り組むこととしており、2025年度までに30製品/サービスの創出並びにSDGsの達成に貢献する既存製品・サービスの発掘及び紹介を目指すために、ステークホルダーからこの取組への理解及び協力を得る必要がある。
・指標「市民・企業向け環境ワークショップ：119人」：身近に自然環境が少ない本市における市民にも環境保護の大切を伝えるための木工ワークショップに19人、コンポストに関するワークショップに44人、歩きたくなるまちについて検討するウォークアブルワークショップに26人、太陽光のワークショップに30人の参加があり、市民のSDGsに関する機運を高めることができた。

【社会】
・指標「地域の拠点を活用したリスキリングワークショップの参加者数：154人」：上記環境ワークショップに加え、ノーコードでアプリやwebサイトを作成するワークショップなど、デジタル技術向上のワークショップを開催し、市民のITリテラシーを高めることができた。
・指標「コードフォー拠点化した既存施設数：0施設」：2023年度にはファブラボ・映像スタジオ・コードフォー拠点化に向けた機器の導入に取り組んだ。2025年度までに「拠点」として市民等が利用できる環境を整えるために、機器の運用サポートができる人材の確保・育成に取り組む必要がある。

【環境】
・指標「太陽光発電システム等の再生可能エネルギー技術の導入施設数」：直接指標の増加につなげたものではないが、再生可能エネルギーが導入されているステークホルダーの「金沢工業大学」と連携し、防災や減災について考えるワークショップと施設見学会を併せて実施し、15人の参加があり、再生可能エネルギーの重要性と防災への意識向上につなげることができた。

SDGs未来都市等進捗評価シート（様式1）

2023年度

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

（1）三側面をつなぐ統合的取組名

サステナブルでウェルビーイングな野々市市の実現を支える市民協働による野々市中央公園周辺地域のCoデザインプログラム

（2）三側面をつなぐ統合的取組の概要

本市最大の公園である野々市中央公園の拡張整備に取り組むことに併せて、公園周辺のまちづくりに市民が主体的に参加できる環境を整えるため、オープンバッジ制度や市民参加型合意形成プラットフォーム「Liqlid」を活用するとともに、LWC 指標を用いて活動量を見える化することで、サステナブルでウェルビーイングなまちの実現を目指す。

（3）三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境	経済⇄社会	社会⇄環境
各種環境ワークショップの開催により、市民の環境意識の向上につながったことと併せて、ワークショップ参加者に“野々市ブランド（地域内の特色ある製品のうち、特に優れたもの）”の認定を受けている市内企業が製作している「紙ストロー」を配布することで、SDGsの達成に貢献する製品への関心を高めるとともに、SDGs関連市場の拡大・活性化に向けた普及啓発の促進につなげることができた。	SDGsに関する取り組みや新規事業の創出に向け、地域企業にSDGsビジネスをテーマとしたゲーミフィケーション教材を活用したワークショップを開催することで、持続可能な地域づくりに向けた意識の向上につながった。さらに、公共施設を活用した各種リスキリングワークショップを開催することで、若者を中心に、SDGs推進を身近な自分事として捉え、深く考えることで、マイプロジェクトを持ち、起業に関心を持つ市民の増加に向けた足がかりとした。	リスキリングワークショップを開催するとともに、その参加者や指導者（連携した大学の学生）に対しオープンバッジを交付し、SDGs推進への関心を高め、意識変容や行動変容を促すことや、今後実施予定の「子ども若者議会」への関心につなげることができた。また、環境やウォーカブルシティを考えるワークショップを開催するとともに、公共施設内に木工用切削機器や3Dプリンターなどを導入し、参加者や指導者の知識・スキルの発展を後押しする環境を整備することができた。

（4）三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2023年実績	2024年実績	2025年実績	2025年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】 企業・起業家が主催する環境ワークショップの参加者数	2023年3月 0人	2023年 119人			2025年 900人	13%
2	【環境→経済】 SDGs認定商品の数	2023年3月 0種類	2023年 0種類			2025年 10種類	0%
3	【経済→社会】 SDGsビジネスをテーマとしたゲーミフィケーション教材を活用したワークショップ参加者数	2023年3月 0人	2023年 22人			2025年 300人	7%
4	【社会→経済】 SDGsイベントの参加者数	2023年3月 0人	2023年 69人			2025年 900人	8%
5	【社会→環境】 子ども若者議会の参加者数	2023年3月 0人	2023年 0人			2025年 60人	0%
6	【環境→社会】 ウォーカブルシティデザインワークショップの参加者数	2023年3月 0人	2023年 26人			2025年 180人	14%

（5）自律的好循環の形成に向けた取組状況

- 内部組織として「SDGs推進本部」を庁内に設置し、全庁をあげての推進体制を整えるとともに、国内外で活躍する外部有識者による「アドバイザーボード」8名（男性4名、女性4名）を組織の上、会議を開催し、今後の推進体制について意見や助言をいただいた。
- 将来的にSDGs関連事業の運営を担う組織として「SDGs推進協議会」を設置するとともに、第一歩の取組として、ホームページを新たに立ち上げ、ワークショップやオープンバッジの周知や、SDGs推進協議会の開催をアピールすることができた。加えて、ワークショップの参加者に対して、知識・スキルのデジタル証明である「オープンバッジ」をSDGs推進協議会から発行した。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

（6）「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 全体を通して2024年度からの事業本格展開に向け、2023年度は事業の検討を主に組みつつ、段階的に事業に着手することができた。
- 指標1「企業・起業家が主催する環境ワークショップの参加者：119人」自然環境を感じにくい市民にも環境保護の大切を伝えるために開催している木工ワークショップ19人、コンポストに関するワークショップ44人、歩きたくなるまちについて検討するウォークアブルワークショップ26人、太陽光のワークショップ30人の参加があり、市民のSDGsに関する機運を高めることができた。
- 指標2「SDGs認定商品の数」については、2024年度中に認定基準を定め、2025年度までに10種類を認定することを目指すこととしており、本市既存の産品等の認定制度（野々市ブランド認定制度）との関連等も勘案した上でSDGs商品の認定制度の確立に向けて取り組む。
- 指標4「SDGsイベントの参加者数」については、SDGsの取り組みを実施している企業等とも連携したイベントを想定しており、実施に向けて検討を進めている。一方で、今後開催予定の「SDGsイベント」への関心を高めるため、SDGsワークショップを相当数展開するとともに、市のメインイベントである「椿まつり」や「マナビフェスタ」等でSDGsブースを出展し、市内外の方に効果的にSDGsの普及啓発及びSDGs推進に向けた取組のアピールを行った。
- 指標5「子ども若者議会の参加者数」については、子ども若者議会を2024年度に実施する予定としており、小学生から大学生を対象として参加促進に向けた周知に取り組むとともに、市議会に提言する取組であることから、市議会との調整を進める必要がある。

（7）有識者からの取組に対する評価

- ・フィジカルな整備とデジタルプラットフォームを組み合わせる試みとして、興味深いといえる。
- ・若年者を対象とするワークショップの試みについては、参加者数だけではなく、効果（意識や行動の変化）の指標が必要である。
- ・リスキリングワークショップの積極的な推進が社会面、経済面で大きなネットワーク効果を持つことを期待する。
- ・野々市宿の地域内の連携、周辺との一体感の連携の活用を積極的に発信いただきたい。
- ・オープンバッジ制度や、関連する市民参加型の取り組みについて幅広く実績として報告していただくことを期待する。
- ・PBL（課題解決型学習）を広げるための学習資料本を作成したことは、成果として更にアピールすると良い。図書版にして、販売することも期待する。研修を実施するだけでなく、ビジネスにも活用していただきたい。
- ・学校中心に、PBL（課題解決型学習）という能動的な人材育成のプログラムを導入しているが、「授業にPBL教育を導入した学校数」は目標8校に対して1校のみであり、取組を促進する必要がある。
- ・モデル事業は補助事業であり、一定の達成度が求められるが、達成度が0の指標が多い。提案時の指標以外にもモデル事業としての実績があるのであれば、説明資料を提出いただくことが望ましい。良い実績はあると思うので、指標の立て方に工夫が必要である。
- ・サステナブルスキルや経験を見える化するオープンバッジ制度は良いが、そのオープンバッジをさらなる実践に活用し、ランクアップし、より市民を巻き込むプロセス設計（ヒアリングの最後に説明されていた部分）が表現されていないのはもったいない。また、実行内容と評価指標が一致していないため、実施内容と評価指標の整理が必要に思われる。